

民衆の声
ボイス

公明党 横浜市会ニュース

No.99

VOICEよこはま

http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com 公明党横浜市会議員団 〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL.671-3023 FAX.681-2060

公明党のネットワーク(国会・地方議員)で 市民生活の“いのちと暮らし”を守る!

「防災減災」を政治・社会の主流へ!



首都直下型地震や南海トラフ地震などの発生が懸念され、大地震が発生した際は、甚大な被害となる事が予想されています。公明党は「防災・減災対策」については、「一人の生命を守り抜く」ために、政策の主流に押し上げ、ついには文化まで高める視点を持ち、全力で取り組んでいます。横浜市では、令和4年度、全区の浸水ハザードマップを作成し、市民への周知を図ります。

コロナ禍から命を守る!

三浦のぶひろ参議院議員の提案で全国配備が推進された、パルスオキシメーターについて、横浜市でも全ての自宅療養者に貸与され、重症化予防に活用しています。3回目ワクチン接種の推進においても、ワクチン供給や接種体制について連携を図り、円滑な接種を推進しています。引き続き感染症対策の更なる強化を行います。



福祉・介護・保育所・幼稚園教諭等の処遇改善

令和4年2月から、国の経済対策で示された3%程度の(9000円)処遇改善が実施されることとなります。



介護現場の課題に耳を傾ける

暮らしと経済を守る!

横浜市内企業の99%以上を占める中小事業者へのきめ細かな支援を通じて、市内経済の復興を果たします。三浦のぶひろ参院議員が実現した中小企業の経営を支え、活力を生み出す「ものづくり補助金」の活用を推進しました。令和4年度は「新型コロナウイルス特別資金」等、資金繰り支援の拡充も図ります。



町の商店で声を聴く

令和3年 第4回定例会における論戦より

一般質問 木内 秀一 (旭区選出)

持続可能な都市経営



少子高齢化の進展は生産年齢人口の減少に繋がり、様々な分野の担い手不足、税収減などを引き起こすことが想定されます。人口減少が自治体経営に大きな影響を及ぼす中、子育て、福祉といった市民サービスの維持や経済活性化は極めて重要な課題です。各種施策の展開に必要な財源の確保なども見越して、様々な不安を抱える市民や事業者との信頼関係を保ち「これからも、この横浜で安心して暮らし、働く」と実感いただけるような戦略の早期検討を提言しました。市長からは「中長期的な視点で持続的な運営を行う」という強い思いから、まずは「財政ビジョン」を策定する」との答弁がありました。



地域交通の確保

路線バスの利用者減や運転手不足に伴い、地域交通の根幹となる路線バスの維持が困難な状況になっています。また、高齢化の進展等により日常生活を支える移動手段の確保も求められるなど、地域交通の確保は本市の重要な課題となっています。少子高齢化は一層進行し、そこにコロナ禍が追い打ちをかけ、地域交通の対策は待ったなしの状況です。

バス路線の維持と合わせ、バス路線がないエリアについては、日常生活の移動手段の確保に向けた地域交通サポート事業の拡充や、タクシィ活用についての関係者との話し合いを進めていますが、市長には層のスピード感を持って地域交通施策を進めるよう提言しました。



議案関連質疑 尾崎 太 (鶴見区選出)

地域公共交通事業者支援(タクシィ事業者)



「コロナ禍における生活様式の変化から、地域交通の利用者が減少していますが、タクシィ事業者は地域のきめ細かな移動を支え、地域交通の確保に取り組む中で重要な役割があります。そこで、地域公共交通事業者支援により、タクシィ事業者を対象としている理由について市長に質問しました。市長からは、「タクシィ事業者は他の交通事業者と比べ、その多くが中小企業や個人事業主で運賃収入が経営の柱となっており、利用者の減少が直接減収に繋がっていることから、事業継続への支援が必要と考えた」との答弁があり、新たな地域交通システム構築の一翼を担うきっかけとなることが期待されます。



東部方面斎場(仮称)新築工事

横浜市では、市内5か所目となる東部方面斎場(仮称)の整備が進められています。当施設は市内最大規模の斎場となる予定ですが、大型車両等の通行による渋滞が激しい工業地域に整備される都市型斎場という側面があります。そこで東部方面斎場(仮称)整備における課題について市長に質問しました。

市長からは、「限られた土地を有効に活用する都市型斎場となるが、周辺環境と調和した厳粛な場とする必要がある」と考え、現在の交通渋滞等の状況も考慮して市民の皆様が安全で利用しやすい斎場となるよう、関係機関の調整や地域・周辺企業等と意見交換を通して整備を進める」との答弁がありました。



写真は北部斎場

横浜市新型コロナウイルス感染症コールセンター

Tel. 045-550-5530 Fax. 045-846-0500
《帰国者・接触者相談センター》 *24時間対応(土日、祝日を含む)

- 感染症の特徴、予防方法、有症時の対応など、一般的な相談
- 症状がある方等に検査を実施している医療機関を紹介

* 症状が重い、徐々に悪化している等(特に夜間・休日)緊急の場合→119(救急車を依頼)

公明党の主張が令和4年度予算案に大きく反映しました！

コロナから命と暮らしを守る ▶ 感染拡大防止へ

横浜市 3回目ワクチン接種のさらなる前倒しを決定 〔令和4年2月1日時点〕

高齢者
(65歳以上)

- 接種を開始しています。
- 2回目接種から6か月経過後の方に個別通知(接種券)を送ります。

一般
(64歳以下)

- 2月中旬から接種を開始します。
- 個別通知(接種券)の発送は、2回目接種との間隔を段階的に短縮し、3月14日発送分から6か月経過後の方に発送します。

*スムーズに予約できるよう、予約専用のサイトで予約の状況を見える化や、区役所・市内郵便局での予約代行を進めます。
*個別接種医療機関を約1600か所から1900か所へ増やします。また、大規模接種会場、集団接種会場の設置を進めます。

神奈川県PCR等検査無料化事業が行なわれています。詳しくはコチラ↓

次の3項目全てに該当する方は、無料でPCR検査がご利用できます 〔令和4年2月1日時点〕

- 県内在住の方
- 感染リスクが高い環境にあるなど、感染不安を感じている方や、感染の不安を解消したい事情のある方
- 新型コロナウイルス感染症の症状が出ていない方

検査実施場所は
コチラから▶

神奈川県 無料PCR検査 検索
神奈川県PCR等検査無料化事業



子どもたちへの支援も実現

- 未来応援給付(子育て世帯への臨時特別給付)10万円を現金支給
- 修学旅行キャンセル料等を公費で負担



公明党市議団から要望書を市長に提出

「中学校給食」の環境を整備

今年度86校で実施した、新1年生が皆で給食を食べる「さくらプログラム」を4年度は全144校で実施予定です。併せて、受け渡し時間を短縮するため配膳の工夫もなされ、給食を利用しやすい環境整備が進みます。

今年度の利用実績から4年度は当初の制度設計の上限である喫食率30%を超えることも見込まれることから、希望する生徒が全員食べられるよう、増産体制にも万全を期すことを強く申し入れています。



より多くの
生徒に給食を

長年にわたり公明党が主導してきた鉄道網の整備について、4年度も高速鉄道3号線延伸事業(あざみ野~新百合ヶ丘)に向けた調査検討を進めます。また、4年度はグリーンラインの6両化を段階的に推進します。さらに、相鉄・東急直通線は2023年3月の開業を予定し、工事が最終段階です。



グリーンライン

鉄道がもっと便利に

政務活動最前線

「海底ごみ調査」を実施



八景島近海での調査を視察(1月20日)

プラスチックごみなどによる海洋汚染へ世界的な関心が高まっていますが、横浜市では以前から海岸や河川、海上のごみ回収に取り組んでいます。

先進地域への視察なども踏まえ、2020年3月の議会で公明党市議団より「海底ごみの回収も積極的に検討すべき」と訴え、水中ドローンなどによる実態調査を提案し、本年1月より、水中ドローンとダイバーによる潜水調査が行われています。まずは試験的に横浜港内の数か所に絞った調査ですが、結果に応じてさらなる広域調査や効率的な回収方法の検討も進められる予定であり、海の環境改善に向けた大切な一歩です。

不登校・ひきこもり対策

不登校・引きこもり予防協会の杉浦孝宣代表理事から「9060問題は義務教育から予防せよ」とのテーマで講演をいただきました。ひきこもり問題の長期化により「8050」問題から「9060」問題へと移行し始めていますが、「不登校」と「引きこもり」の線引きを明確化する必要がある等、長年に渡る支援実績に裏付けられた助言をいただきました。



杉浦代表理事による講演